

技能実習生
47都道府県プロフィール（Ⅱ）

沖縄県

時給は300円 月6千円の布団リース代をピンハネされ... 外国人技能実習制度は「奴隷制と同じ」と識者

2022/5/23

外国人技能実習制度の廃止を求める全国キャラバンが22日、沖縄と北海道を皮切りにスタートした。

那覇市の教育福祉会館ではNPO法人「移住者と連帯する全国ネットワーク」の鳥井一平代表理事が講演し、問題点を指摘した。鳥井さんは実際に相談を受けた移住労働者の例を基に時給300円の低賃金で働き、給与から地域相場と比べて割高な家賃や毎月6千円の布団のリース代を雇用主に「ピンハネ」され、日常的に強制帰国を示唆される例があると報告した。

労働契約とは労働力とお金の交渉で、労働者と経営者の人格は不干涉。技能実習制度はこうした内容になっておらず、主従関係による奴隷制度と同じだ」と廃止を訴えた。



外国人技能実習生、農業の技術取得へ ベトナムやインドネシアの29人 JAおきなわで 入国後講習の閉講式

2022/6/20

JAおきなわは17日、第7、8期の外国人技能実習生入国後講習閉講式を那覇市のJA会館で開いた。今期の実習生はベトナム人10人、インドネシア人19人の計29人で、実習生らは今後3年間にわたり糸満市を中心に県内の受け入れ農家の下で農業の技術を学ぶ。

本来、第7期生は2021年7月、8期生は22年1月の入国を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的流行で入国が大幅に遅れていた。実習生らは5月13日に沖縄入りし、宜野座村のJAおきなわ教育研修所で1カ月間、入国後講習を受講した。閉講式では一人ずつに講習修了証書と記念品が手渡された



<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-1535578.html>

介護も文化も学びたい...ミャンマーの実習生5人、 沖縄・浦添で初の受け入れ

2022/6/27

ミャンマーから**介護技能実習生5人**が来日し、6月から**沖縄県浦添市内の介護施設**で働いている。在留期間は3年を予定し、5人は1年後の介護試験に挑戦する。浦添での介護技能実習生の受け入れは初めて。

実習生の受け入れは市内の福祉関係の企業、団体で構成する**市介護人材サポート事業連絡協議会が窓口**となり、5人は現在、協議会の会員でもあるNPO法人ライフサポートてだこ、社会医療法人仁愛会、医療法人太陽会が運営する介護施設で働いている。

連絡協議会は2018年12月に慢性的な人手不足に陥っている介護業界の**人材育成や確保などを目的に結成**した。同協議会の友寄利津子会長は「会員同士が協力し、悩みや情報を共有することでトラブルなどが起こらないよう対応する」と話した。友寄さんによると、平均年齢が低いミャンマーでは「介護職」という概念が浸透しておらず、**実習生の5人はいずれも介護職に就くのは初めて。**



ミャンマーから技能実習生として来日した（前列左から）メイ・トゥ・キンさん、ビュー・ビャー・ウインさん、アーカイン・チーさん、キン・ブー・ブイン・ソーさん、コバ・ヤミン・マウンさん＝10日、浦添市役所